

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	45
基本施策	12	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	5	高校への継続的な支援		

1 施策の概要

基本方針	雄武高等学校については、町外からの通学生に対する通学費補助や、部活動、芸術活動への補助を引き続き実施するとともに、地域が一体となった存続運動を展開していく。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費及び同校の部活動に対する補助制度は、同校の2間口の確保や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	雄武高等学校振興事業	教育総務係	5,856	A	継続/現状維持	A
②	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	0	A	継続/現状維持	A
③	雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	教育総務係	41	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であり、引き続き行政の支援が必要である。本施策を実施しない場合、町外生徒の入学者数が減少し、生徒数が維持されず、高校存続にも影響を及ぼすことが想定される。
② 有効性	A	町外生徒の通学費等補助を実施したことにより、町外生徒の入学者数が増加しており、高校の存続が図られ、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	町外生徒については、通学費等の補助の有無により入学者数に影響があることから、今後も補助支援が必要であると思慮され、現状においては、コストに見合った効果が得られていると判断する。
④ 公平性	A	通学費補助については、生徒の一部に対しての補助であるが、生徒の維持を図らなければ、高校存続にも影響することから、相対的な観点から公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	現行の補助・助成制度は、議会及び多くの町民の理解のもと実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
雄武高等学校の生徒数を維持するとともに、魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続するための支援であり、施策目的に沿った推進が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
道教委が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の計画が不透明な中において、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが不可欠であり、魅力ある学校づくりのため、継続することが必要であるが、次善の対応策の検討も考慮していく必要がある。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		